経営環境

令和６年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症に関する行動制限の緩和に伴い、緩やかに持ち直しの動きがみられる一方、地政学的リスクによる国際的な原材料価格高騰を背景とした物価高などの要因もあり不安定な情勢でした。

当地域におきましては、従来からの人口減少、少子高齢化、労働力不足、後継者問題、事業所減少等々、依然として多くの課題と厳しい環境下にある状況が続いています。

事業の展望と今後の課題

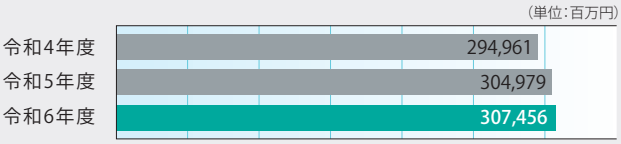
令和７年度は、新３か年経営計画「北星しんきん『未来を拓く変革への挑戦』（～信用金庫の真価の発揮と地域の持続的発展を目指して～）」の２年目にあたります。

地域では、人口減少・高齢化・人手不足などの多くの課題を抱え、加えて日本銀行による金利正常化に直面する中で、引き続き新３か年経営計画にあるとおり、自らの自己変革による変化への適応を図り、地域に根差した真の協同組織金融機関として、役職員が更なる活力を喚起し、お客さま、そして地域が抱える課題の解決に尽力し、幸せづくりと地域社会全体の持続的発展成長を目指しております。

そして、これまでの考動を継承しつつ、蓄積したノウハウから独自性・特性を発揮し、更に未来を拓く変革へ果敢にチャレンジすることを目指してまいります。

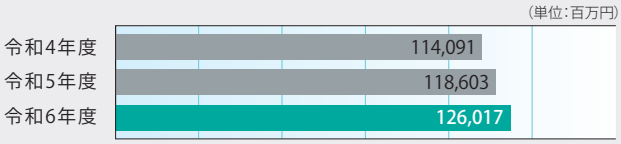
預　金

預金期末残高は3,074億円となりました。流動性預金の伸びが増加の牽引役となりました。



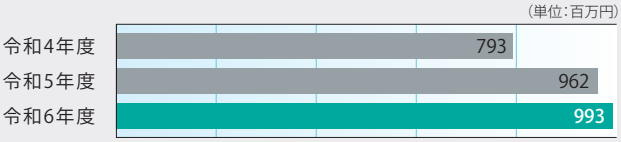
貸出金

貸出金期末残高は1,260億円となりました。賃貸用住宅向け貸出金などを中心に残高が増加しております。



当期純利益

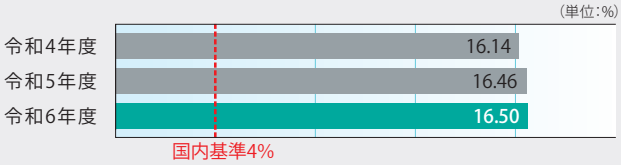
貸出金利息の増加等により、経常利益1,360百万円、当期純利益993百万円といずれも前年を上回る結果となりました。



自己資本比率

自己資本比率は16.50%と前期比0.04ポイント上昇しました。

金融機関の安全性を判断する指標である国内基準の4%を十分上回っており、今後も安定した収益確保により、自己資本の充実に努めてまいります。



最近5年間の主要な経営指標の推移

（単位：百万円）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収益	3,809	3,950	3,969	4,266	4,510
経常利益	911	1,020	1,100	1,336	1,360
当期純利益	665	736	793	962	993
出資総額	765	758	755	753	751
出資総口数（千口）	15,302	15,175	15,105	15,073	15,037
会員数	18,361人	17,585人	17,022人	16,517人	16,066人
純資産額	23,152	22,538	20,623	20,730	17,716
総資産額	308,172	313,444	317,524	327,998	327,355
預金積金残高	281,654	288,163	294,961	304,979	307,456
貸出金残高	109,735	109,797	114,091	118,603	126,017
有価証券残高	123,290	126,840	120,802	123,298	120,800
単体自己資本比率	15.69%	15.66%	16.14%	16.46%	16.50%
出資に対する配当金（出資1口当たり）	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円	2.0円
役員数	14人	14人	14人	13人	13人
うち常勤役員数	8人	8人	8人	7人	7人
職員数	175人	174人	176人	176人	167人

(注) 1.単体自己資本比率は、信用金庫法第89条において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき算出しております。